巻　頭　言

イントラネットソリューションへの期待

静岡大学情報学部
教授　水野忠則

企業の意思決定をいかに迅速・的確に行うかによって，企業の栄枯盛衰が決まると言っても過言ではない。そのため，EDPS（電子データ処理システム），MIS（マネージメント情報システム），クライアント／サーバシステムというように，その時代に合った最新の技術を取り入れた企業内の情報処理システムが順次開発されてきた。

情報処理システムの基になるコンピュータシステムは，従来，単体のコンピュータを中心に構成されてきた。しかしながら，昨今は，インターネットワークを始めとするコンピュータネットワークの急速な発展により，複数のコンピュータが有機的に一体化した高度な分散処理システムが実現されてきている。

コンピュータネットワークは，1979年にアメリカにおいて発表されたアーパネットに由来し，その後のパケット交換技術，そしてIBM社SNA（システムネットワーク体系），三菱電機㈱のMNA（マルチシェアドネットワーク体系）などが開発され，それらのネットワーク技術を基に，インターネットが開発された。

インターネットは，単にワールドワイドに高速な通信路が張られているだけではなく，多くの人にとって情報処理及びコミュニケーション処理が可能なネットワークとして発展してきた。その中で代表的な技術が，ハイパーリンク技術を基としたWWW（World Wide Web）である。

WWWは，当初，単にネットワークを介してデータを検索するものと思われてきたが，その技術の持つ普遍性により，情報処理システム一般に展開された。さらに，インターネット技術を利用したクローズシステムであるイントラネットも広く普及してきた。イントラネット，インターネットを発展させたエクストラネットも次いで開発されてきている。

もう一つの流れが，モーバイルコンピューティングである。携帯端末と移動型電話の驚くべき急速な普及により，コンピュータはいつでもどこでも利用可能な時代となり，時間・距離を全く意識しない新しいコンピューティングの時代が開かれつつある。

言い方を変えると，世の中は今や革新の真っ最中であり，ビジネスチャンスは無限に開かれていると言ってよいであろう。

今回の特集は，イントラネットソリューションということで，三菱電機が幅広く推し進めているイントラネットの戦略の一端が紹介されており，これからの情報処理システムの動きを知るのに適切なものになると思う。

今後，インターネット技術を基に，イントラネット，エクストラネット，モーバイルコンピューティングなど最新のネットワーク技術を融合したエンタープライズシステムが，分散オブジェクト指向技術，セキュリティ技術など各種の最新技術を取り入れた形で，高度な情報処理システムとして発展していくことを期待する。